

資料2 ICF を自分に当てはめる

(学生への指示事項)

各自、今日中に「提出用」シートに書いて提出。

現在のことも、過去の経験でもよい。

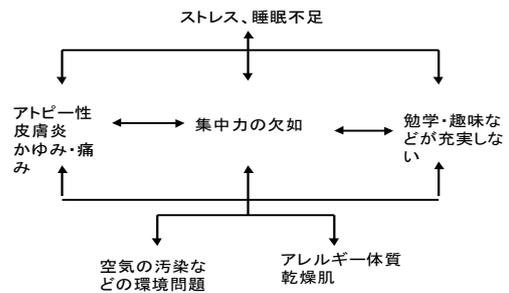
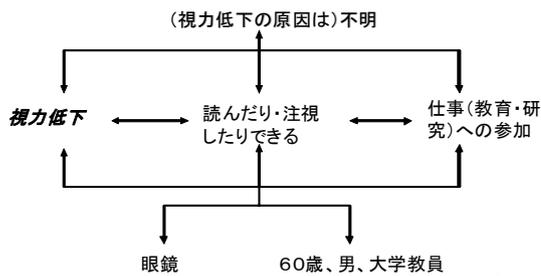
ICF関連図(プラス「主体・主観」)に入れてもよいし、これを使わずに心身機能・構造、活動と参加、環境などの分類項目を使って自分を評価してもよい。詳しい項目ごとの評価をした後で、その結果の主なものをICF関連図に落とし込んでよい。

特定の活動や参加の項目を選んで、実行状況と能力とを評価し、その違いを分析してもよい。

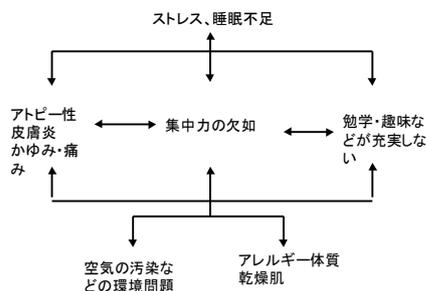
(参考例)

(学生からの提出例。元は手書き)

佐藤久夫の視覚の機能障害は、  
眼鏡(環境)によって補われ・・・



(学生からの提出例。元は手書き)



(学生からの提出例。元は手書き)

### 資料3 グループでの作業:ICF を障害者・高齢者事例に当てはめる①②

●障害者の事例を探す。(文献でも、実際的事例でも可。プライバシー配慮。障害者だけでなく高齢者事例も可。いくつかの事例を組み合わせて作った事例でも可。いずれにせよ特定の「参加」の問題に焦点を当てる。

●それをICFの枠組み(要素の関連図)を使って図示(2種類)。1つは参加の問題を抱えた状態図。他は支援後の状態図または支援計画図。それぞれに題名をつける。資料4

ICF 関連図①では、本人が解決を希望する参加の問題は何かを示す。例えば、「旅行に行けなくなった」、「閉じこもり」、「失業」、など。「失業した視覚障害者」などやや解説的なものもよい。「再び旅行を楽しみたい」などと参加の希望でもよい。

ICF 関連図②では、①の参加の問題・課題が解決された状態、解決される予定の状態を示す題名を付ける。例えば、「旅行に行けるようになった」、「旅行に行けるようにするための今後の戦略」、「再び旅行を楽しむために」など。(題名で過去形なのか今後の予定なのかわかるようにする。)

●ICFの構成要素とその関連を図に描く。さらに「主観的次元」(主体・主観)も活用する。図は、ICF 関連図のデザインのままでもよいし、事例の必要に応じて「配置」を大幅に変えてもよい。

記載事項がICFのどの構成要素なのかを区別する。

健康状態(H: Health Condition)、心身機能・構造(B: Body Function and Structure)、活動(A: Activity)、参加(P: Participation)、環境因子(E: Environmental Factors)、個人因子(PF: Personal Factors)、主体・主観(Sub: Subjective Dimension)の区別を明示する。日本語でも英語略号でもよい。

矢印の区別。

マイナスの影響は点線の矢印、プラスの影響は実線の矢印、で表す。双方向の矢印も同じ。通常はある構成要素内の多数の項目が他の構成要素のいろいろな項目にプラスやマイナスの影響を及ぼしている。したがって極端に複雑にならないよう主要なもののみ(つまりある一つの参加の問題に大きく影響するものを)図示する。

所定の用紙を利用。スクリーンに投影するので濃く書く。カラーも使用可。

●提出は次の週の授業時間に。最初の週は説明などが入るので、60分、次の週は90分近く使って作業。図書館などにも事例探しに行く。グループ発表は第3週目と4週目に。発表グループとコメント・質問担当グループをあらかじめ決めて、3週目の最初の20分ほどグループで議論。

## このグループ作業に当たっての参考資料

Wさん、48歳、男性、

- 大学入学直後に統合失調症を発症、19歳で入院。
- 以後、10回の入院を繰り返し、34歳から現在までは14年間入院を続けている。
- 70歳すぎの両親は小さな鉄工所を営み、Wさんが外泊時には手伝うよう指示し、うまくできないことをしかっている。
- 3人兄弟で兄、姉は結婚・独立している。
- 10年ほど前まで暴力、服薬拒否などがあったが、現在は症状はほぼ治まっている。

Wさん、つづき

- 障害基礎年金2級を受け、両親が管理し、医療費などに当てている。
- Wさんは、両親との生活は息苦しく、アパートへの退院を希望するが、一人暮らしや就労の経験が全くなく、不安が強い。
- 両親も本人以上に不安で単身生活に反対し、両親の反対を押し切ってまで退院する気になれずに2年が経過している。

図 Wさん:退院して一人暮らしをしたい

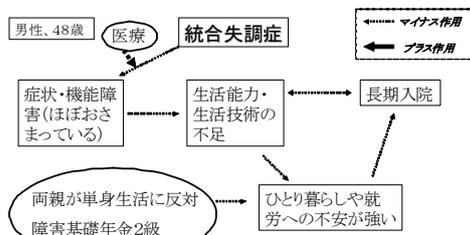


図 Wさんの今後の戦略

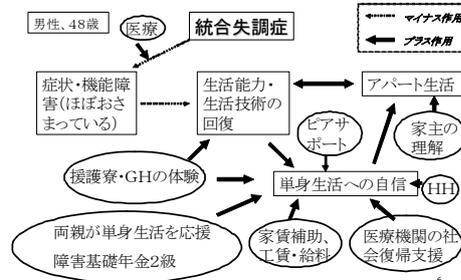


図 失業し閉じこもったAさん

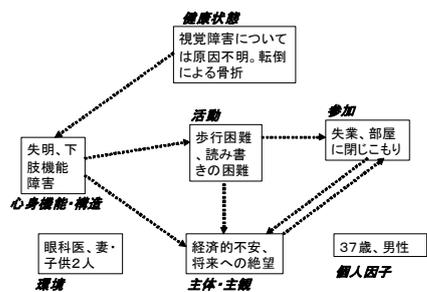
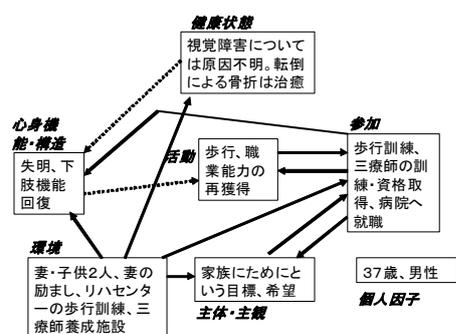


図 再出発したAさん



## 関連資料紹介(第8回目で紹介)

「リハビリテーション実施計画書、厚生花子さんの例」、介護保険のHPより

岡田幸之「ICFの精神医療への導入----ICFに基づく精神医療実施計画書の開発」、精神医学、49(1):41-48,2007

諏訪さゆり・大瀧清作「ケアプランに活かすICFの視点」、日総研出版、2005

上田敏「ICFの理解と活用」萌文社、2005

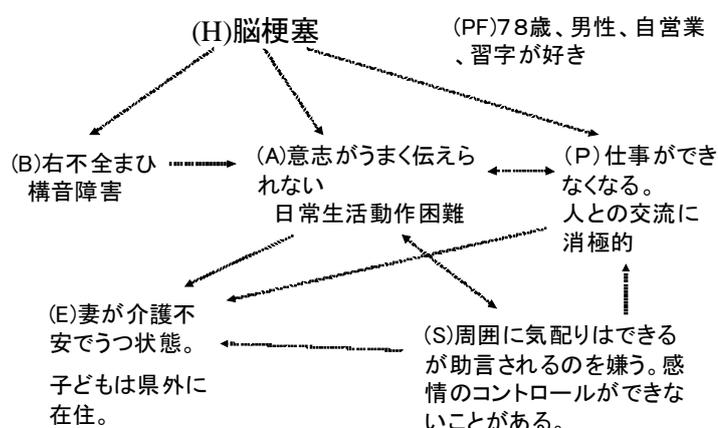
大川弥生『ICFコーディングの実際』、『平成16年度厚生労働科学研究・障害保健福祉総合研究

成果発表会『共通言語』としてのICF (WHO国際生活機能分類)の活用――医療・介護・福祉の連携のツールとして――』所収、2004.11.12 (とくに活動と参加の区分について)

国立特別支援教育総合研究所編著「ICF 及び ICF-CY の活用」ジアーズ教育新社、2007

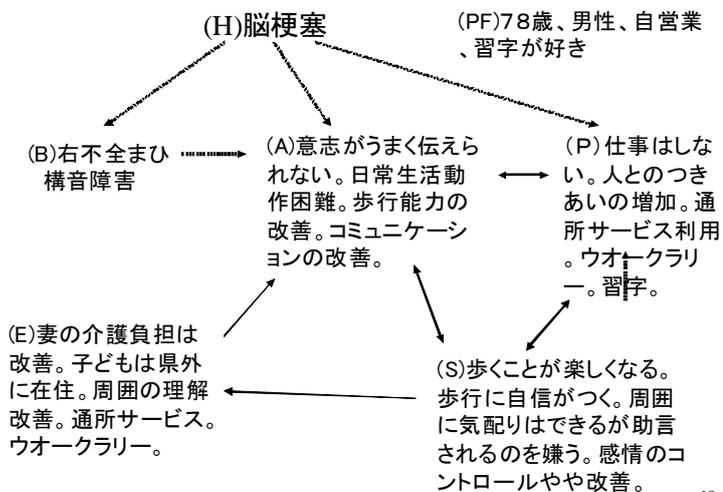
## グループによる作図の例

ICF関連図① 交流に消極的な利用者



9

ICF関連図② 通所サービス利用を契機に参加機会が増加した



10